

## 29年4月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 4月1日～ 28年4月10日

## 2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
10月分の回答企業数は14社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## ア. 国産材

## (1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/4月	5月	6月
入荷動向	スギ	10.0	15.0	0.0
	ヒノキ	18.8	12.5	12.5
	カラマツ	△ 100.0	△ 100.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 75.0	△ 25.0
消費動向	スギ	5.0	5.0	5.0
	ヒノキ	6.3	6.3	6.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	12.5	12.5	6.3
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 100.0	△ 100.0
	トドマツ	0.0	△ 25.0	0.0

・スギの原木入荷は4月、5月のやや増加から、6月は横ばいに。ヒノキは3カ月連続して増加。カラマツは3カ月連続で大きく減少。トドマツも3カ月連続して減少。

・スギ及びヒノキ消費は3カ月総じてやや増加。カラマツは3カ月連続の横ばい。トドマツは4月の増加から、5月、6月は横ばいに。

・スギ在庫は3カ月連続して増加。ヒノキは3カ月連続で横ばい。カラマツは3カ月連続して大きく減少。トドマツは4月の横ばいから、5月は減少、6月は再び横ばいに。

## (2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	29/4月	5月	6月
スギ	△ 10.0	△ 15.0	△ 15.0
ヒノキ	△ 14.3	△ 7.1	△ 7.1
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキの製材原木価格は3カ月連続で弱含み推移。カラマツとトドマツは3カ月連続の横ばい。

## モニターからのコメント

’(原木荷動き)

- ・4月からカラマツ・トドマツとも入荷量は急減している。消費量は現状で推移。カラマツ在庫は不足気味だが、トドマツは心配ない(北海道)。
- ・民有林からの入荷は予想外に順調、国有林は入山規制あり。5,000m<sup>3</sup>/月でフル生産状態。現状で1カ月の在庫だが、半月から1カ月余分に欲しい(北海道)。
- ・増産体制が続く模様(関東)。
- ・原木は安定出荷で入荷増、消費は横ばい(関東)。
- ・入荷量は変わらず、消費量は一定量を維持。劣化が進む時期に向けて少量ずつだが在庫を減少させていく(近畿)。
- ・入荷は、4月は動く、5月は少し減る、6月は5月の横ばい。消費は変動させない。在庫は少しずつ減らす(中国)。
- ・原木の入荷状況は悪くない、製材能力に応じた消費に徹している、少しずつ在庫増加中(中国)。
- ・スギの入荷・消費は相変わらず少ないが、多少増える見込み。ヒノキは多いままの横ばい。在庫は先行き伐採時期が悪くなるので、能力以上には増やさない(中国)。
- ・入荷は天候次第につきる。消費はあまり変わらないのでは(九州)。
- ・入荷は天候が良好で出材は順調。消費は機械入替えが終了し、残業しているので多少増加。在庫は多少仕入減少のため減(九州)。

(原木価格)

- ・現状横ばいではあるが、カラマツは不足しているので上昇懸念がある（北海道）。
- ・トドマツは基本的には価格安定。小径木が薄いため、全体的には多少のコストアップあり（北海道）。
- ・スギは販売不振で価格下がる（関東）。
- ・2月、3月に雪の影響で出荷量が減少し価格が上昇したが、当月からは安定した出材が見込めるので価格が多少下がると思われる（近畿）。
- ・大きな変化見られず（中国）。
- ・ヒノキは安値で安定、スギは相場を左右する技量なし（中国）。
- ・多量に出材があるためA材価格が下がっているが、下限値は現価格ぐらいだろう。需要もあるので、天候次第では変動があるかも？（九州）。
- ・出荷順調、買い気も順調（九州）。

## 29年4月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## (3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/4月	5月	6月
生産動向	スギ	5.0	15.0	15.0
	ヒノキ	18.8	18.8	14.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
出荷動向	スギ	0.0	△ 20.0	△ 15.0
	ヒノキ	6.3	△ 6.3	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	10.0	20.0	20.0
	ヒノキ	6.3	18.8	12.5
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキの製品の生産は3カ月連続して増加。カラマツは3カ月連続して横ばいで推移。トドマツは4月の増加から、5月、6月は横ばいに。

・スギの製品出荷は4月の横ばいから5月、6月は減少に。・ヒノキは4月はやや増加、5月は減少、6月は横ばいに。カラマツは3カ月連続して横ばいで推移。トドマツは4月の増加から5月、6月は横ばいに。

・スギ及びヒノキの製品在庫は3カ月連続で増加。カラマツは3カ月連続して横ばいで推移。トドマツは4月の減少から、5月、6月は横ばいに。

## (4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		29/4月	5月	6月
スギ	柱角 KD10.5×3	0.0	△ 10.0	△ 10.0
	柱角 KD12×3	△ 10.0	△ 15.0	△ 15.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	△ 7.1	△ 7.1	△ 7.1
	母屋角	6.3	0.0	0.0
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	0.0	△ 5.0	△ 5.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	△ 7.1	△ 7.1	△ 7.1
	ラミナ	△ 10.0	△ 10.0	△ 10.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	6.3	0.0
柱角 KD12×3		0.0	△ 6.3	△ 6.3
土台角 10.5×4		12.5	6.3	0.0
土台角 12×4		7.1	0.0	0.0
通し柱 12×6		12.5	12.5	12.5
ラミナ		0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ製品の出荷価格は総じて横ばいしないし弱含みで推移。

・ヒノキ製品の出荷価格は柱角KD10.5及び12は横ばいからやや弱含み。土台角はやや強含みから横ばいに、通し柱は強含み。ラミナは横ばいで推移。

・カラマツ梱包材、カラマツラミナ及びトドマツサンギは保合で推移。

## モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・生産・出荷とも計画通りで推移（北海道）。
- ・見込で生産できる余裕がないので、受注生産を実施。出荷は堅調、在庫は出荷に追われる状況（北海道）。
- ・生産は安定生産となる。製品販売が不振となり出荷減、在庫は増（関東）。
- ・注文状況次第で生産、地元小売関係は減少傾向。出荷は例年通り5月の連休前の納期は動くと思われ、その後は反動減。荷動きは4月はそこそこ、5月以降、世間が暇になれば、他社からの売込みも増え、在庫増になる可能性あり（近畿）。
- ・生産は6月まで増やす。出荷は4月、5月は横ばい、6月は増える見込み。6月までは在庫を増やす考え（中国）。
- ・販売は順調とは言えないので、無理な増産は控えている。出荷は減速ぎみ。動き良くなくB材の在庫が増えている（中国）。

(製材品出荷価格動向)

- ・現状使用量は横ばい（北海道）。
- ・原木のコストアップ、運賃値上げ要素はあるが、需要の盛り上がりを待つ（北海道）。
- ・スギ10.5柱角が売れ行き不振（関東）。
- ・特に12柱角は需要減で価格下落（関東）。
- ・製品出荷価格は、スギは特に変動なし。ヒノキも取扱量が少なく変動なし（近畿）。
- ・ヒノキ製品については4月以降値上げを唱える（中国）。
- ・スギ3m12cm柱角、ヒノキ12cm柱角の価格が弱含み、ヒノキラミナの価格は変化なし（中国）。
- ・ヒノキ製品の出荷価格は、プレカット工場の稼働次第による（九州）。

## 29年4月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

## イ. 外材

## (1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/4月	5月	6月
仕入動向	米マツ丸太	△ 50.0	△ 50.0	50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 100.0	0.0	50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入は4月、5月が減少、6月は増加へ。ラジアータ丸太は4月、5月の横ばいから6月は減少へ。

・米マツ丸太の消費は4月減少、5月横ばい、6月は増加に。ラジアータ丸太は4月、5月の横ばいから6月は減少へ。

・米マツ丸太の在庫は4月は増加、5月、6月は横ばいに。ラジアータ丸太は3カ月連続して横ばいで推移。

## (2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/4月	5月	6月
米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
NZラジアータ丸太	50.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の製材用原木購入価格は3カ月連続して横ばい。ラジアータ丸太はフレートの上昇により強含みで推移。

## モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・5月、6月の不需要期が近づいているため入荷、消費、在庫とも横ばい。

(原木価格動向)

- ・FRTの上昇により原木価格が上昇している。

29年4月分

## 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

## (3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	29/4月	5月	6月
生産			
米マツ製材品	△ 100.0	0.0	50.0
NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
動向			
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷			
米マツ製材品	△ 50.0	50.0	50.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	△ 50.0
動向			
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫			
米マツ製材品	0.0	△ 50.0	0.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	50.0
動向			
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は4月は減少、5月は横ばい、6月は増加に。NZラジアータ製材品は4月は横ばいから、5月、6月は減少に。

・米マツ製材品の出荷は4月は減少、5月、6月は増加に。NZラジアータ製材品は4月、5月の横ばいから6月は減少に。

・米マツ製材品の在庫は4月横ばい、5月減少、6月は再び横ばいに。NZラジアータは4月、5月の横ばいから6月は増加に。

## (4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	29/4月	5月	6月
米マツ平角	0.0	0.0	0.0
米マツ正角	0.0	0.0	0.0
米マツ小割	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	50.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)	50.0	0.0	0.0
NZ土木用材	0.0	0.0	0.0
その他	—	—	—

・米マツ製品の出荷価格は3カ月連続して保合で推移。

・NZ梱包材(割板)及び(割角)は4月の強含みから5月、6月は保合に。NZ土木用材は3カ月連続して保合。

## モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

・5月のゴールデンウィーク、6～7月の梅雨が木材需要を減らすため生産、出荷、在庫とも横ばいで推移。

(製材品出荷価格動向)

・2月から4月の間で販売価格を上げたいが、以降は横ばいになる。